令和４年度海洋教育三者比較より検証

R4年度　学校評価　三者比較

（4:そう思う　3:ややそう思う　2:あまりそう思わない　1:そう思わない ）（%）

	No.	生徒アンケート （前:41人)1人≒2.4% （後:45人)1人≒2. 2%	4 前期	4 後期	4 誤差(後－前)	3 前期	3 後期	3 誤差(後－前)	2 前期	2 後期	2 誤差(後－前)	1 前期	1 後期	1 誤差(後－前)	保護者アンケート （33人） 1人≒3.1%	4 前期	4 後期	4 誤差(後－前)	3 前期	3 後期	3 誤差(後－前)	2 前期	2 後期	2 誤差(後－前)	1 前期	1 後期	1 誤差(後－前)	教職員アンケート （10人） 1人≒10%	4 前期	4 後期	4 誤差(後－前)	3 前期	3 後期	3 誤差(後－前)	2 前期	2 後期	2 誤差(後－前)
Ⅲ総合的な学習（海洋教育）の時間・特別活動	7	学校で学んだことは、将来、社会に出たときに役立つと思う。	63.4	51.1	-12.3	34.1	46.7	12.6	2.4	2.2	-0.2				学校は、将来に役立つキャリア教育を意識した指導を行っている。（前期32 件）	25.0	12.1	-12.9	50.0	57.6	7.6	25.0	24.2	-0.8		6.1	6.1	生徒の将来の夢や希望の実現に向け、進路指導の充実を図っている。	30	50	20	60	30	-30	10	20	10
	8	将来の夢や目標を持っている。	34.1	51.1	17.0	36.6	28.9	-7.7	19.5	11.1	-8.4	9.8	8.9	-0.9	学校は子どもの良さや可能性を伸ばす教育活動が行われている。	36.4	21.2	-15.2	48.5	42.4	-6.1	12.1	24.2	12.1	3.0	12.1	9.1	授業では、生徒が自分なりに計画や工夫をして目標に向かって取り組もうとするように指導している。	33	40	7	67	60	-7			
	9	生徒会活動に意欲的かつ積極的に取り組んでいる。	48.8	55.6	6.8	43.9	40.0	-3.9	7.3	4.4	-2.9				子どもは、積極的に生徒会活動を行っていると思う。前期31 件）	41.9	29.0	-12.9	32.3	51.6	19.3	25.8	16.1	-9.7		3	3.2	生徒会執行部、各種委員会の活動や指導が適切に行われている。	30	10	-20	40	60	20	30	30	
	10	行事や体験学習などでは、主体的に取り組んでいる。	70.7	62.2	-8.5	29.3	33.3	4.0		4.4	4.4				行事や体験学習などでは、子どもが主体的に取り組んでいる。（前期 9件）	60.0	48.5	-11.5	40.0	42.4	2.4		3.0	3.0		6.1	6.1										
	11	地域行事やボランティア活動等に主体的に参加することができる。	48.8	60.0	11.2	46.3	35.6	-10.7	4.9	4.4	-0.5				子どもは地域社会など行事やボランティア活動に主体的に参加していると思う。	27.3	24.2	-3.1	57.6	48.5	-9.1	15.2	24.2	9.0		3.0	3.0	地域社会など行事やボランティア活動に参加する意欲を高める構成になっている。	20	40	20	70	40	-30	10	20	10
	12	地域や社会をよくするためにどうしたらよいか、自分にできることを考えることができる。	26.8	46.7	19.9	65.9	44.4	-21.5	7.3	8.9	1.6				地域や社会をよくするために何をすべきか考えていると思う。	18.2	9.1	-9.1	57.6	39.4	-18.2	21.2	45.5	24.3	3.0	6.2	3.2	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができる構成になっている。	40	30	-10	50	50		10	20	10
	13	自分の学習課題をもとに考え、体験（観察）し、わかったことをまとめたり、伝えたり（発表）することができる。	29.3	53.3	24.0	61	40	-21.0	9.8	6.7	-3.1				学校行事の実施後は反省がまとめられ、次に活かされていると感じる。（前期32件）	25	12.1	-12.9	50.0	57.6	7.6	25.0	24.2	-0.8		6.1	6.1	行事の実施後は反省がまとめられ、次に活かされている。	10	30	20	60	40	-20	30	30	

三者アンケート調査の比較より

Ⅲ:生徒は将来の夢や目標の割合は増加している（生徒-8）が、取り組みが三者ともキャリア教育視点の割合が減少したことから、体験中心になっていることがうかがえる（7）。このことは主体的に取り組んでいる割合が減少した（生徒・保護者-10）とも関連していると考えられ、今後は生徒の主体性を意識した取り組みを実行していく必要がある。 地域行事やボランティアに関しては生徒・教職員とも割合が増加（生徒・教師-11・12）しているが、保護者の割合が減少（保護者-11・12）している。 今後は保護者への活動内容の周知の方法を工夫していく必要がある。このことは項目13で生徒・教職員の割合が増加（生徒・教職員-13）にもかかわらず、保護者で減少（保護者-13）したことからもうかがえる。